

【篠山小中学校組合】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICT環境を活用することで、主体的に学び、協働しながら問題を解決し、創造的な活動に取り組むことが出来ている。個別最適化された学習やオンラインディスカッション、プログラミング・デジタル制作などを通じて、多様な学び方が実現される。また、時間や場所にとらわれない柔軟な学習環境を整備することで、一人ひとりに合った学びを支援し、学習の質を向上させることができる。ICTを積極的に活用することで、学び続ける力を育み、未来を担う人材の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想第1期では、児童生徒に1人1台端末が配備され、校内ネットワーク環境が整備された。これにより、オンライン授業やデジタル教材の活用が進み、学習活動の変化や教員のICT活用が促進された。一方で、端末の維持管理や更新による業務負担、ICT活用の格差、通信環境の不安定さ、情報モラル等の更なる推進といった課題も浮上した。今後は、これらの課題に対応しながら、GIGA2期以降に向けた持続可能な運用体制の構築が求められる。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用方策は、教育の質向上を目指す重要な取組である。まず、授業では、端末を活用することで協働学習や個別最適化を進めることができ、反転授業などの柔軟な学習方法が実現できる。次に、家庭学習との連携では、オンラインプラットフォームを活用し、宿題の提出や学習履歴の管理を行い、家庭でも学習をサポートする体制が整う。さらに、端末の管理・運用には、端末管理システムを活用してセキュリティ対策を強化し、トラブル発生時の対応体制を構築することが可能である。教員研修・サポート面では、定期的なICT研修と支援体制を整備し、教員のICTスキル向上を促進できる。評価・フィードバックでは、学習データを活用することで個別にフィードバックを提供し、生徒一人ひとりに最適な学習支援が可能となる。

1人1台端末の環境を引き続き維持することは、学習の個別化と効率化が進み、生徒の学びを豊かにし、教育現場の効率化や質の向上に貢献できると考える。